

「お経」「正信偈」とは

「お経」とは、お釈迦さまの「説法をお弟子が文字として書きとめたものです。」

「正信偈」とは、阿弥陀さま・お釈迦さま・七高僧しちこうそうからなる浄土真宗の教え全体を、一篇いっぺんの詩に要約した、親鸞聖人しんらん作の宗教詩です。

お経は、故人を縁として拝読することが多いのですが、死者にささげる呪文ではありません。お経の言葉は、私に生きる意味や本当の喜びとは何かを教えてください、お釈迦さまからの説法なのです。

命日とは

浄土真宗をいただく者として、命日には「命の終わり、始まり」二つの意味があるのです。

命日とは人間がその命を終えた日であり、そのまま、阿弥陀さまのお浄土へ生まれ、仏さまとしての命が始まった日でもあるのです。

亡き方を思う命日は、そのまま、いまの私があり方を静かに考える大切な縁です。

月の命日には、故人を「縁に、僧侶と共にお経を拝読し、阿弥陀さまのみ教えを、お聞かせいただきましょ。

お焼香《本願寺派（お西）の作法》

① 焼香台しょうこうだいの前いちれいで一礼



② 香をつまむ（一度だけ）



③ 香炉こうろの中にくべる
（額ぬかに押し頂きません）



④ 合掌がっしょうしお念仏となを称える
（なもあみだぶつ…）



⑤ 礼らい 拝はい



⑥ 最後いちれいに一礼



浄土真宗本願寺派《お西》

法事のころ